

釧新郷土芸術賞に輝く

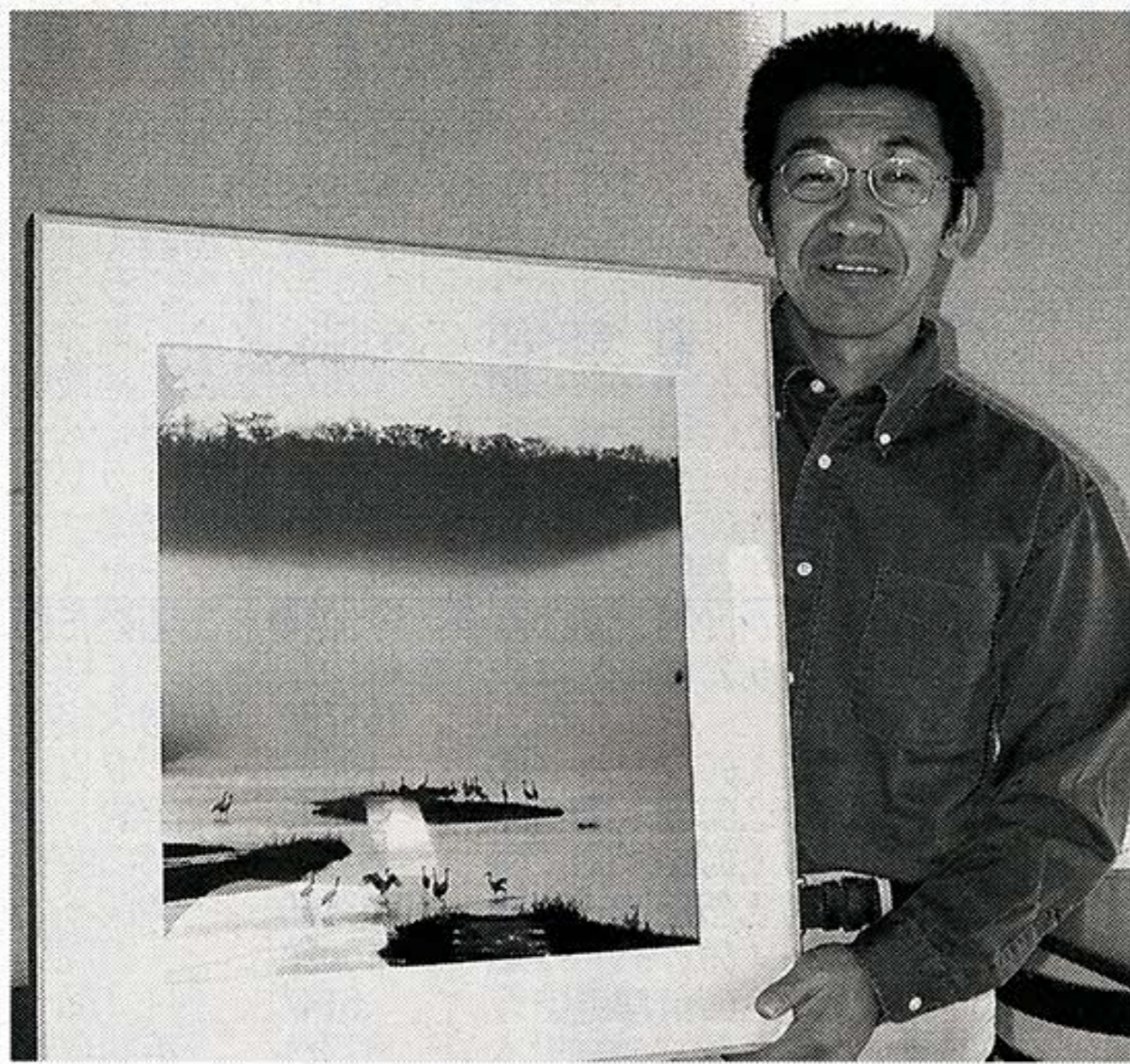
受賞者
の横顔

□上□

財団法人釧新教育芸術振興基金（平川剛喜理事長）の2002年度（第31回）「釧新郷土芸術賞」の受賞者が決まった。今年、釧路湿原とタンチョウを撮り続けて30年の写真の和田正宏氏、温かい歌声で道内各地での演奏会活動と共に後進の指導にも当たる声楽の泉洋子氏、また、特別賞として今年創立40周年を迎え、ピアノ・合唱指導を通して子供たちに多くの夢を与えている釧路ピアノ音楽院（長野正美代表）が選ばれた。各受賞者の業績を順次紹介する。

写真を本格的に始めたった鶴居村の自然やタンチョウという愛着がきっかけ、ディア関係者がしばしばのは中学時代、生まれ育ちの姿を形に残したかった。家業の旅館にメ滞在したことからカメラ

イメージを大事に写真を撮り続けたい、と和田さん



和田 正宏さん(46) 鶴居村鶴居西1

写真

と接触する機会に恵まれ、必然的にカメラを自己表現の方法として選んだ。

1985年に釧路市で初の個展「タンチョウの四季」を開いて以来、ほぼ3年ごとに大規模な個展を世界各地で開催、好評を博す。ラムサール条約関係でも脚光を浴び、90年にラムサール事務局のポストカードに採用されて世界62カ国で紹介されたほか、93年にはラム

サークル条約国際会議に写真協賛している。著書に「タンチョウ

ルT A I T Oの経営に携わりながら来年の個展で発表する写真の撮影に取り組んでいる。

道東の自然と命 追求

タンチョウと湿原撮り30年

イメージを先行させて

撮影することを大事にする和田さんは、タンチョウへの思いを「鶴居村で生まれ育ったわたしにとって当たり前」の存在」と語り、「ラムサール条約などで注目を集め、『タンチョウの和田』と評価されるが、たまたま発表した作品が多いというだけ。道東全体が好きで、自然ありきでカメラが付いてきたというスタンスは変わっていない」と分析、自身の思い出を振り返る。

和田さんは「いまだに子供時代の原風景がそのまま広がるので、これからも湿原に遊びに行く感覚で撮影していきたい。歴史ある賞の受賞はうれしい反面、作品への責任もある。賞に負けない写真を撮り続けていく」と喜びを語った。